

令和4年度「福島県総合計画 出前講座」開催実績

月	日	実施先の団体名等	参加者数
4月	19日（火）	日本政策金融公庫 福島支店	15名
	26日（火）	福島大学（岩崎ゼミ生）	21名
5月	27日（金）	広野町立広野小学校（6年生）	22名
	30日（月）	桑折町立半田醸芳小学校（5年生）	18名
	31日（火）	福島大学（川崎教授・都市計画概論の受講生）	19名
6月	1日（水）	小野町役場	14名
	7日（火）	下郷町立檜原小学校（5～6年生）	29名
	15日（水）	ECC国際外語専門学校（大阪市）	21名
	17日（金）	平工業高等学校（情報工学科3年生）	40名
	22日（水）	いわき市立湯本第三中学校（1年生）	27名
	27日（月）	檜葉町立檜葉中学校（1～3年生）	44名
	30日（木）	福島市立福島第二中学校（1～2年生）	119名
7月	12日（火）	第1回福島の今を知る見学会 （東邦銀行、東京海上日動火災保険の職員）	20名
	15日（金）	SDGs理解度向上に向けた3者連携若手研修会 （東邦銀行、東京海上日動火災保険の職員）	65名
8月	6日（土）	日本青年会議所 東北地区 福島ブロック協議会	17名
	22日（月）	関西地方大学スタディツアー （広島大学、同志社大学、立命館大学）	16名
	30日（火）	いわき市立平第一小学校（6年生）	62名
9月	5日（月）	自治法派遣職員	67名
	7日（水）	会津若松市立川南小学校（5～6年生）	40名
	9日（金）	郡山東高等学校（1年生）	195名
	26日（月）	郡山市立守山小学校（6年生）	68名
	29日（水）	南会津町立荒海中学校（2年生）	14名
10月	4日（火）	相馬高等学校（1年生）	157名
	9日（日）	第5回全国うつくしま県人会（県外在住の本県出身者）	42名
	11日（火）	福島県高等学校教頭会会津支部	30名
	25日（火）	福島大学（川崎教授・都市計画概論の受講生）	78名
	26日（水）	矢吹町立矢吹小学校（5～6年生）	41名
	〃	白河市立白河第二中学校（2年生）	131名
11月	4日（金）	田村市立都路小学校（5～6年生）	17名
	〃	田村市立都路中学校（1年生）	12名
	16日（水）	福島西高等学校（2年生デザイン科学科）	37名
	18日（金）	喜多方高等学校（2年生）	144名
	28日（月）	派遣職員・実務研修生	22名
	29日（火）	猪苗代町立猪苗代中学校（全校生）	242名
12月	1日（木）	郡山高等学校（1年生）	240名
	9日（金）	会津工業高等学校（1年生電気情報科）	34名
計 36回			2,180名

※参加者数は「当日欠席者」を除いた人数です。

【内訳】

■小学校	: 8校
■中学校	: 7校
■高校	: 8校
■大学、専門学校	: 5校
■民間企業、団体等	: 5団体
■市町村	: 3市町村

【出前講座の感想（抜粋）】

（小学校）

- ・福島県の魅力が知れて良かった。楽しかった。
- ・福島県に関心が高まった。自分たちもできることに協力したい。
- ・基本目標の「やさしさ、すこやかさ、おいしさ」が印象に残った。
- ・福島にはSDGsの18番目のオリジナルの目標（複合災害から福島を復興させよう）があることが印象に残った。

（中学校）

- ・知らなかったことや、福島が抱えている課題を知ることができた。
- ・人口減少の問題や、風評被害のことが印象に残った。
- ・自分にできることをよく考えていきたい。
- ・夢をしっかり持っていきたい。ふくしまの将来の姿の実現に向けて取り組みたい。

（高校）

- ・福島についてもっと知りたい、関心を持ちたいと感じた。
- ・ワークショップで他の人の意見を聞いて考えを深められたのが良かった。
- ・今後の生活に大いに役立てていきたい。
- ・自分の将来についてよく考えることができた。

（大学、専門学校）

- ・福島や震災について全然知らないことを身にしみて感じたので、魅力や課題を積極的に調べ、自分にできることを考えていきたい。
- ・自分事として考えるにはまず知ることが重要だと感じた。考えることを続けていきたい。
- ・SDGsの多様な項目から福島県の将来の姿を描くことができると始めて知って驚いた。
- ・課題の本質は現場にあるため、現地に足を運んで自分で体験することの大切さを知った。

（民間企業、団体等）

- ・行政の思いが伝わり、共感した。もっと福島を知り、主体的に行動したい。
- ・福島に貢献したいという決意が高まった。
- ・自分事として考えていくことの重要性を強く感じた。

（市町村）

- ・総合計画を知ることで、今の業務が何のために行われているのかを再確認できた。
- ・今後の仕事の進め方を見直すきっかけになった。他の方法はないのかなど、常に考えながら業務を行っていきたい。
- ・日頃、自分の業務だけでなく、周りの職員の業務を俯瞰して見ることでより良い行政運営の一助になれるよう努力していきたい。